

救急基金だより

1分1秒を争う、いのちのために
救急基金

- 救急基金の歩み
- 寄附金募集事例紹介
 - ・ 日上市消防本部
 - ・ 東山梨行政事務組合・東山梨消防本部
- 皆様からの寄付
- 平成14年度救急基金会計の決算
- 平成15年度救急基金会計の予算



救急基金は、応急手当の普及など救急の振興のために活用されます。

財団法人 救急振興財団



救急基金の歩み

応急手当の普及へ向けて

救急救命士制度の発足とともに救急救命士の養成を目的として平成3年5月に設立された財団法人救急振興財団は、この12年間に8,232名の救急救命士を誕生させるなど、救急体制の充実及び応急処置による心肺停止傷病者の救命効果の向上に大きく貢献しています。

しかし、なお一層の救命効果の向上を図るためには救急救命士の現場到着前の一般住民による応急手当が重要であり、また、近年住民の応急手当への関心も高まってきています。

そこで、こうした課題に対処するために、財団法人救急振興財団では平成4年より、皆様から寄せられた寄附金を基金として積

立て、その運用益で応急手当講習会で使用する資機材の寄贈や応急手当の普及など、救急の振興に役立つ事業を行っています。

事業の概要

<平成5年度～平成8年度>

住民の要請に応じて消防機関が派遣する応急手当指導員を養成する為の講習会の開催

<平成9年度>

寄附金募集用のポスター及び救急基金箱の作製

<平成10年度～平成15年度予定>

消防機関が住民向けに行う応急手当講習会で使用する資機材の寄贈

寄附金募集事例紹介

日立市消防本部

茨城県の東北部に位置し、西は阿武隈山地が連なる日立市は、人口約19万人、世帯数約7万3000世帯をかかえ、茨城県でも3番目の人口の多さを誇る中核都市です。

日立市の歴史は、明治時代の日立鉱山の開山とともに栄え、日立製作所発祥の地として日本の高度経済成長を支え、全国有数の工業都市として発展してきました。

そんな日立市全域の安全を見守る日立市消防本部は、救急現場への到着時間の早さは、全国平均が6分のところを4分以内と、全国でもトップレベルの活動を行なっている消防本部です。

近年は若年人口の流出に伴う核家族化が進んでいることを背景に出場件数が昨年は6,000件を越えるなど、救急に対する要請が年々高まってきています。日立市消防本部では、多くの命を救う為には応急手

当の知識を持つバイスタンダーの育成が不可欠であるとの考えにたって、普及啓発活動を積極的にすすめています。

特に、たくさんの住民に応急手当を広めたいとの観点から主に普通救命講習

(3時間の講習)の実施に力を注いでいます。平成14年は全体で110回開催し、その中で各中学校の2、3年生を対象に野外事業として普通救命講習を15回ほど実施し、生徒たちも熱心に参加しています。他にも日立市職員の必修研修に組み入れたり、また近隣の工場からの要請も多く事業所単位での講習も実施しています。

また、講習の実施依頼を待つだけでなく、講習会の実施が少ない地域には消防職員が出向いて参加を呼びかけたり、消防本部のホームページに心肺蘇生法など応急手当について掲載するなど消防職員の方々は普及に熱意をもって取り組んでいます。

救急基金箱については、管内の救急基金に協力する病院に順番に2箇所ずつ設置しています。各病院とも救急患者に接する機会が多いことから、救急に対する意識は高く、救急基金の寄付も医療関係者及び患者さんやご家族から多く寄せられています。

ある病院では看護師さんが中心となって各病棟の医局毎に1日1回寄付をするよう取り決めて活動を行なったところ多額の寄付が集まりました。

このように消防・医療関係者のみならず、地域の皆様の救急活動に対して積極的に取り組む姿勢に感謝しつつ、今後のご発展を心よりお祈り申し上げます。



寄附金募集事例紹介

東山梨行政事務組合 東山梨消防本部

日本本土のほぼ中央に位置する東山梨消防本部は、山梨県甲府盆地の東部に位置し、南部にはもも・ぶどう・すももといった果樹地帯が広がり、東北部には秩父多摩甲斐国立公園に代表されるように風向明媚な山岳地帯が広がっています。塩山市、山梨市をはじめとする2市3町2村で構成され、総面積は568km²、うち農地・宅地は12%で、残り88%を山林原野という豊かな自然に囲まれながら、日々住民の安全を守っています。

山梨県では毎年、当本部を含む県内の10の消防本部が山梨県常備消防相互応援協定に基づき消防特別救助隊合同訓練を行っており、突然の大規模な災害等に備え、組織的な救助活動が展開できる体制を整えています。この演習は防災ヘリコプターも出動する、大変大掛かりなものです。特に平成13年8月の合同訓練では、山梨市万力ちどり湖にて当本部が幹事となって演習を行いました。

応急手当普及啓発活動には大変熱心で、普通救命講習を中心として、毎年約50回程度の講習会を実施しています。消防団員、地区住民、事業所、婦人消防隊、幼稚園保護者及びホームヘルパー等、幅広い方々の参加をいただいております。特に救急の日をはさむ救急週間には、講習会の



回数を増やすなどして力強い呼びかけをしています。

また、福祉専門学校等にも応急手当をカリキュラム内に組み込んでもらい直接講習を行うなど、積極的な普及活動を継続しています。

救急基金の募集にあたっては、管内の救急指定病院および消防署に基金箱を設置していただき、多くの患者さんや病院・消防職員の方よりの暖かい寄付金をお預かりさせていただいております。日頃の積極的な普及活動に改めて敬意を表するとともに、今後も普及啓発活動の活性化、さらには本部のますますのご発展をされますよう、期待いたします。

皆様の寄附で購入しているもの



平成10年度より、皆様から寄せられた救急基金の運用益にて、

- ・心肺蘇生訓練用シミュレーター
- ・応急手当講習テキスト
- ・住民配布用の救急絆創膏
- ・応急手当リーフレット付感染防止用シールド

等を寄贈させていただいております。

これらは、各消防本部に寄贈され、一般住民向けの救急救命の講習会や指導資料として活用されています。



*過去の救急基金日より（NO. 1～NO. 4）につきましては、救急振興財団のホームページ（<http://www.fasd.or.jp>）の④救急基金の項目の中に掲載してございます。

■平成14年度救急基金会計の決算（単位：千円）

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
I 収入の部			
1 寄附金収入	2,000	1,825	175
2 救急基金運用収入	695	674	21
3 雑収入	1	1	0
当期収入合計 (A)	2,696	2,500	196
前期繰越収支差額	641	685	△44
収入合計 (B)	3,337	3,185	152
II 支出の部			
1 管理費	40	8	32
2 事業費	966	1,003	△37
3 救急基金積立支出	2,000	1,825	175
当期支出合計 (C)	3,006	2,836	170
当期収支差額 (A) - (C)	△310	△336	26
次期繰越収支差額 (B) - (C)	331	349	△18
※平成15年度末救急基金残高		164,524,675円	

■平成15年度救急基金会計の予算（単位：千円）

科 目	予 算 額	前年度予算	増 減
I 収入の部			
1 寄附金収入	2,000	2,000	0
2 救急基金運用収入	676	695	△19
3 雑収入	1	1	0
当期収入合計 (A)	2,677	2,696	△19
前期繰越収支差額	350	641	△291
収入合計 (B)	3,027	3,337	△310
II 支出の部			
1 事業費	775	1,006	△231
2 救急基金積立支出	2,000	2,000	0
当期支出合計 (C)	2,775	3,006	△231
当期収支差額 (A) - (C)	△98	△310	212
次期繰越収支差額 (B) - (C)	252	331	△79

皆様からの寄附金は、消防本部等に設置された救急基金箱によりお寄せいただいております。救急基金箱に関するお問い合わせは下記あてにお願いいたします。

救急基金だよりNo.5 [編集・発行] 財団法人救急振興財団事務局総務課

〒192-0364 東京都八王子市南大沢4-6

☎ 0426-75-9931

FAX 0426-75-9050